あきしま・街づくり市民会議・なかがみ
まどあかり
平成27年9月10日発行　　第137号

発　行　　あきしま・街づくり市民会議・なかがみ
会長　北村　実
編　集　　広報部会　（部長　幡垣　誠）
ホームページ　http://www.siminkaigi.ma.cx
事務局　　昭島市役所　生活コミュニティ課
TEL042－544－5111 内線（2275）
FAX042－544－6440

回覧

●健康講座「認知症は怖くない」開催

自然健康部会（部長／渡辺玲子）は、8月20日（木）午前10時から昭島市民交流センター2階「松の間」で、健康講座を開催した。

議題は「認知症」。講師の千田富子（せんだとみこ）さんは、認知症ケア上級専門士で、グループホームの施設長の経験も持つ方である。永年、多くの認知症の人と接し、その豊富な経験によるお話は、具体的で、分かりやすい。

従来は「ボケ」とか「痴呆」とか呼ばれていたが、その言葉は侮蔑的で誤解を招きやすいので、平成17年（2005）6月に成立した改正介護保健法で、「認知症」と呼ぶようになった歴史がある。

いろいろな原因で、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったため、記憶障害や判断力障害などが起きて、日常生活に支障が生じる。

▲講師 千田富子さん　　部長 渡辺玲子さん

▲熱心に講演を聞く参加者

長寿社会が、認知症患者を増やすことになるが、早期発見によって、発症を防ぎ・進行を遅らせることが可能であると聞いて、少し安心した。

① 同じことを何度も言ったり、聞いたりする。
② 話すとき、言葉が出にくくなる「あれ」「これ」が多くなる。
③ 以前あった関心事や興味が失われる。
④ 置き忘れ、しまい忘れが多くなる。「財布を盗まれた」と言う。
⑤ 日課、計算、身辺整理ができない。水道やガス栓の閉め忘れが多い。こんな症状があったら、早めに医療機関に行くことをお勧めする。

（自然健康部会・取材／広報部会）

● 国際交流部会が「異文化を体験しよう」の集い

「あきしま・街づくり市民会議・なかがみ　国際交流部会」は、市民交流センターで 7 月 25 日（土）14:00～16:00、月例「国際交流の集い」で、テーマ「異文化を体験しよう」のプレゼンが行われた。

プレゼンターは国際交流部会の部員である面田眞和さんで、定例のように英語と日本語で、プロジェクターを使って行われた。面田さんは、日常、身近に接する言葉や身振り、マナーなど、日本と英語圏の表現の違いの著しいものを数多く集め、「異文化を体験しよう」ということで、クイズ形式で紹介された。

▲講師 面田眞和さんと参加者

これらの違いは、歴史や文化、生活習慣の違いからくると言われ、その難解さや奇妙さ、面白さを再認識した。面白いものを例に上げると、「本のページの隅折り」をアメリカでは「dog-ear（犬の耳）」という。キッチンの流し台にのっている「ガスレンジ」のことを「stove（ストーブ）」という。国際交流部会のメンバーにとってはこの上もない勉強の機会となったためか、2 時間が短かったようだ。

（国際交流部会 ／ 木村耕作）